

学校点描

たった3回の卒業式練習ですが、どの生徒も真剣に式に臨もうする表情が素晴らしいです。

《M中学校》

NO.13 H28. 3. 15

担当：教頭

2月から会議が目白押しです。学校支援教育委員会という会議では、サポート塾のボランティアの方々10名が一同に集まり、1年間の反省や学校への要望をいただきました。もっと双方向の意見交換の大切さを実感しました。歴代PTA会長会議では、30人いるこれまでのPTA会長さんたちのうち23名の方がお集まりいただきました。それぞれの時代のM中を支えてくださった方々が、今のM中の様子を聞いて感想を話してくれます。第5代PTA会長でもある高橋町長さんも参加してお話をしてくれました。スクールバスに一般の人を乗車できる社会実験のための会議も数回夜に開催されました。該当する小中学校代表の方々と、教育長さんをはじめとする町教育委員会の方々や総務課の方、町議会代表の方と各立場の方が集まって安全な登下校の話し合いを熱心に行いました。

本日配布する通信表と一緒に、12月にご協力いただいた生徒や保護者の学校評価アンケートの結果をまとめたものをお配りいたしました。ご意見ひとつひとつに、真摯に耳を傾けて、来年度のM中学校の運営にいかしていきます。

学校が生きているということ

先週は、1年間を通しての最後の授業を全クラスで終わりました。授業の終わりの挨拶では、普段の「起立！礼！」とは違って、「1年間ありがとうございました！」という号令をかけてくれるクラスが多くありました。中には、全員立ったときに、誰かが「何か言った方がいいよ」なんて、生徒の中から仕向けてくれるクラスもありました。

3年生は、昨日あたりから教科を担当した先生方に、クラス一人一人からのメッセージを色紙に書いて渡してくれています。担任の先生方のご指導かもしれませんが、職員室に来て渡している代表の生徒は、その教科担当の先生によって違います。教科担当の先生に一番ゆかりのある生徒が選ばれて渡しているようです。職員室で私の席の隣の校長先生も、3年生の全クラスから色紙をもらっています。色紙の中を覗くと“感謝のことば”が並んでいました。

どうも人間は、節目節目のときに、大切なものが見えだすことが多いようです。普段は、“感謝のことば”なんてなかなか言わないものですが、節目の時期になるとそれが自然と口から出るようです。と同時に、これまで目に見えていなかったことも、目の前にはっきりと見えてきます。

わたし自身、年度末という節目の時期に立ったときにそうでした。

サポート塾で、自分の時間を費やして放課後の生徒への学習支援を行っているボランティアの方々。朝の読み聞かせを行ってくれた方々。荒れた時代であっても学校を支え続けた歴代のPTA会長さんたち。夜遅くまでスクールバスの検討を進めている方々もoshi。今思うと、2年生の修学旅行では東京のO商店街で町をPRするための野菜を用意するために奔走して下さった方々もいらっしゃいました。

『チームM中』が、ここにきてはっきりと見えてきました。誠に恥ずかしい限りです。

今年は、雪が少なく、天候も比較的穏やかでしたが、それでも通学の電車は止まることもありました。早朝にJRに電話すると、通学に間に合うかどうかを担当の職員の方がぎりぎりまで確認して、向こうからわたしの携帯に電話をかけてくださります。ここにも『チームM中』がおりました。あまりにも吹雪が強くて、いつもは各駅に配置する学校の先生が遅れそうなときは、配信メールに『お時間のある方は是非、生徒の誘導に力をかけてください』と書き込みました。すると、それに反応して、地域の方で協力して下さる方や保護者の方がおりました。『チームM中』です。そう、『チームM中』とは、ときどき顔を出すんです。自分ができること、やれそうなことがあったときに、チームの一員になってくださる方々です。

誰の厄介にもならず生きていく人がいないように、学校も、生徒と教職員だけで生きていくことは不可能です。有りえません。学校をもし“生きていく”という表現で使うとすれば、学校が活着しているとはすなわち、たくさんの方々から「生かされている」状態にあることを言います。

今年度1年間、本当にお世話になりました。4月になれば、また新しいM中が始まります。時に厳しいご指摘を受けたことも、学校が失敗した時は素直に頭を下げたこともあります。それでも最後は学校を信じてM中を支えて下さった多くの方々感謝いたします。

卒業式では、たくさんの方々の『チームM中』の方々に感謝と感動を伝えようと、今日は、生徒たち全員が、最後の卒業式練習に臨んでいます。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp